

## 【資料紹介】

# 小前田 2 号墳出土の盾形埴輪

瀧瀬芳之

この盾形埴輪は、出土状況など図面が残されていたにもかかわらず、その行方が不明であった資料である。報告書作成の折に検索したが、ついにその所在がわからず、やむをえずその詳細ははぶかざるをえなかった。しかし今回幸いにも、県立埋蔵文化財センターにおける資料整理の際に再発見されたため、その資料的価値をかんがみ、本報告書の補遺として、あらためてここに紹介するものである。

※

盾形埴輪（第1図）は現存高84.8cmで、基底部を欠いている。盾部は高さ52.8cm、幅は上辺突起部で36.0cm、下辺で37.8cmである。基部は径17.8cm程で側面突帯のすぐ下に円形の透孔（径4cm）をあけている。表裏ともに刷毛目を施し（図では部分的に単位のみで表す）、内面は丁寧に撫でられている。胎土には赤色粒子と砂粒が少量含まれる。焼成は良好で、色調は橙色を呈する。

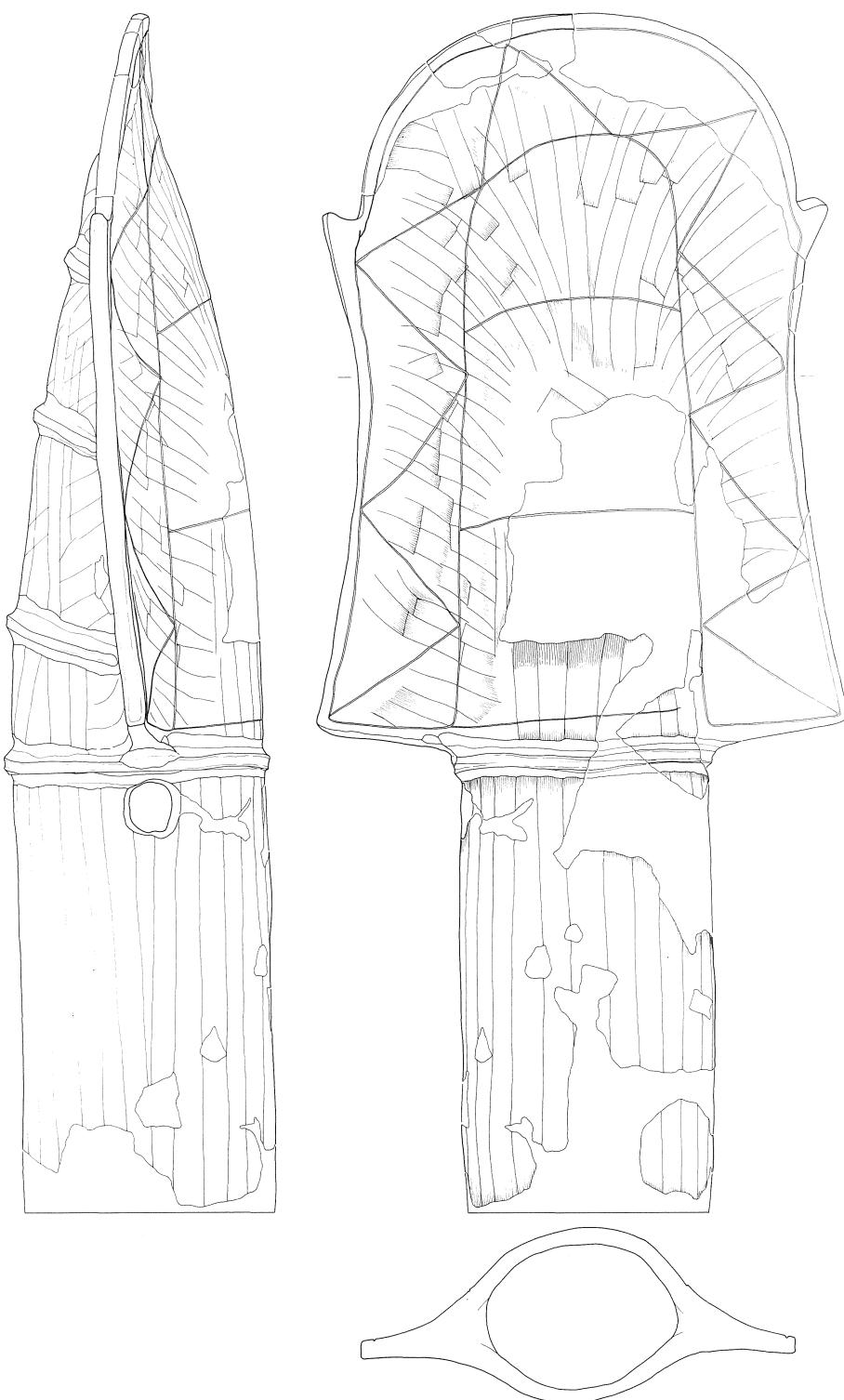
盾部の表面は沈線で区画されているが、その書き順はまず左突起の部分を起点として、縁沿いに下がり、下辺沿いを右にたどる。そして、一筆書きのように筒部を逆U字形に走ってから反対側の縁をたどり完結させ、鋸歯文を廻らせたあとで、最後に筒部の3段の線を書いたものと推定される。鋸歯文の割付けは左右対象ではなく、朱彩は認められない。

裏面には3段の突帯を貼りつけて補強している。突帯は基部上端を廻るものも含めて、高くしつかりとしており、その上下、及び突帯頂部は丁寧に撫でられ、断面は頂部がわずかにくぼんだ台形を呈している。

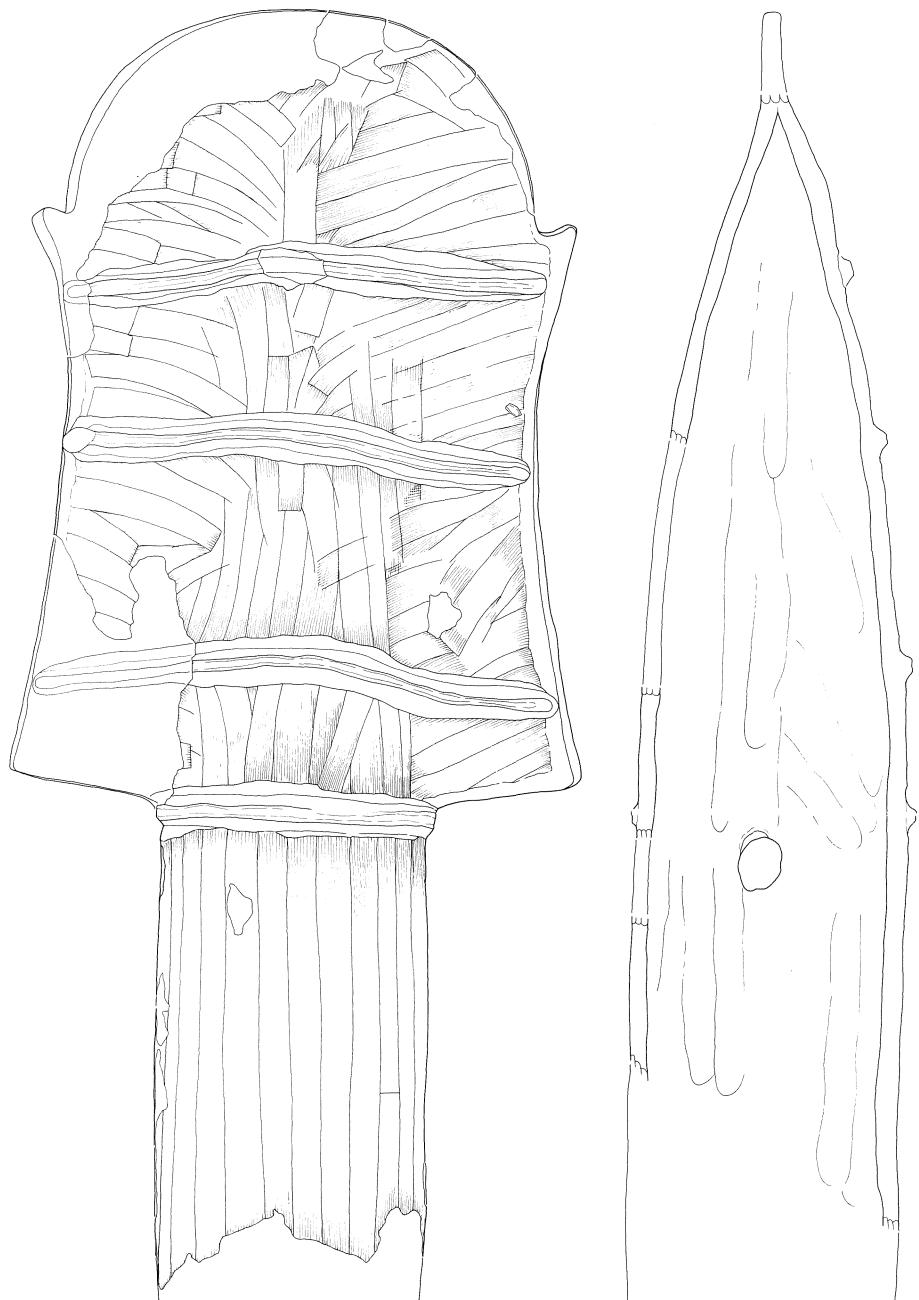
※

この盾形埴輪を出土した小前田 2 号墳は、大里郡寄居町大字桜沢から花園町大字小前田にかけて分布する小前田古墳群に属する。小前田古墳群は、荒川左岸に形成された河岸段丘上に立地し、かつては100基以上の古墳が存在していたとされる大古墳群で、過去数回にわたって調査が行われている（駒井・吉田1973、中川他1958、瀧瀬1986、寄居町1984など）。その結果、古墳群はおもに径20m前後の円墳で構成されており、墳丘をもたない箱式石棺や埴輪棺の存在も明らかとなったが、そのなかで唯一の前方後円墳として確認されたのがこの 2 号墳である（第2図）。

2号墳の墳丘は完全に削平されており、周堀のみが検出されている。全長はおよそ30m、後円部径は20mと推定され、前方部が南西を向いたいわゆる帆立貝式前方後円墳である。主体部は不明。遺物はそのほとんどが周堀内から出土している。埴輪には円筒埴輪のほかに、男子埴輪頭部・腕・家形埴輪片などの形象埴輪がある（第4～6図）。盾形埴輪の破片（第4図6～12）も存在するが、今回の盾形埴輪に接合するものではない。破片には同部位のものがあるため、2号墳には少なくとも3個体の盾形埴輪が存在したことになる。なお、周堀からは土師器や須恵器の破片も出土してい

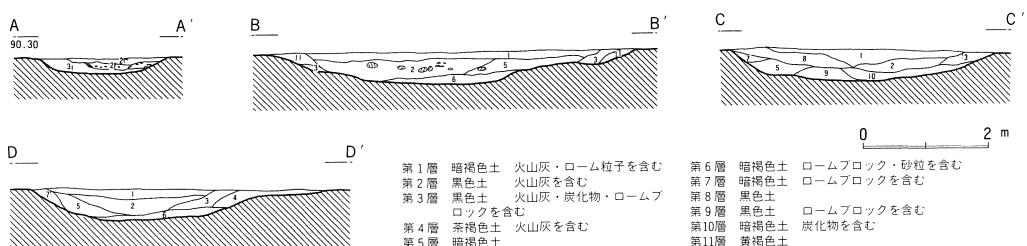


第1図 盾形

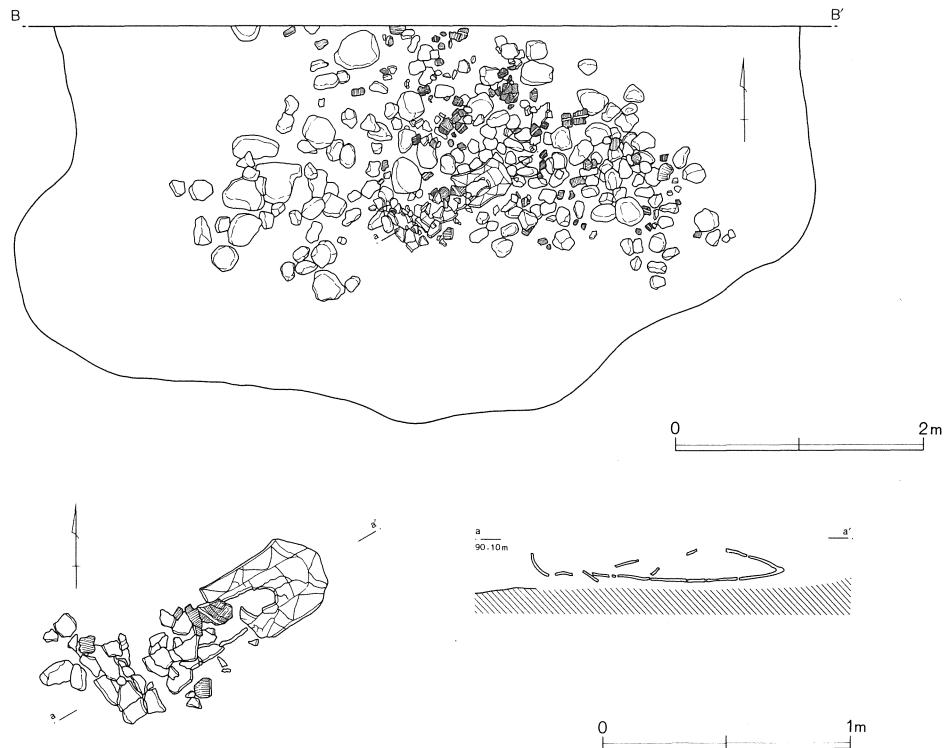


0 10cm

埴輪 (1/5)



第2図 小前田2号墳 (1/240・土層断面 1/120)



第3図 盾形埴輪出土状況 (1/60・1/30)

る(第7図)。

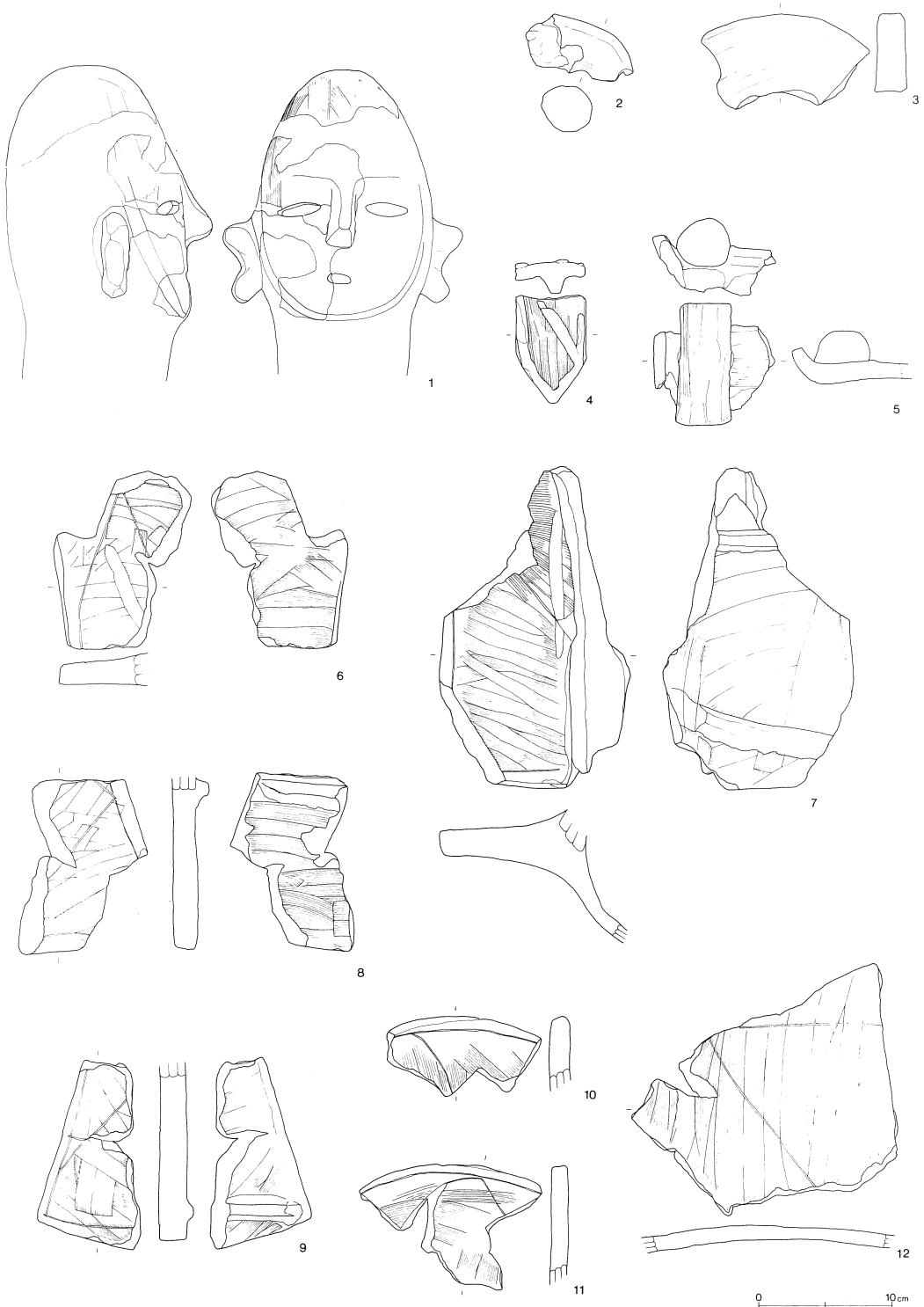
盾形埴輪は北側くびれ部の周堀内(spB-B'の南側)から、葺石に交じって出土した(第3図)。基部を南西に向けて表を上にした状態で、周堀の底近くから検出されているため、2次的な攪乱は受けていないものと考えられる。したがって盾形埴輪が樹立された位置は前方部の西側くびれ部を中心と考えることができよう。

小前田2号墳では、他の形象埴輪の出土数が少なく、かつ出土位置も明らかでないものが多いので、埴輪の配列を復元することはできないのが惜しまれる。

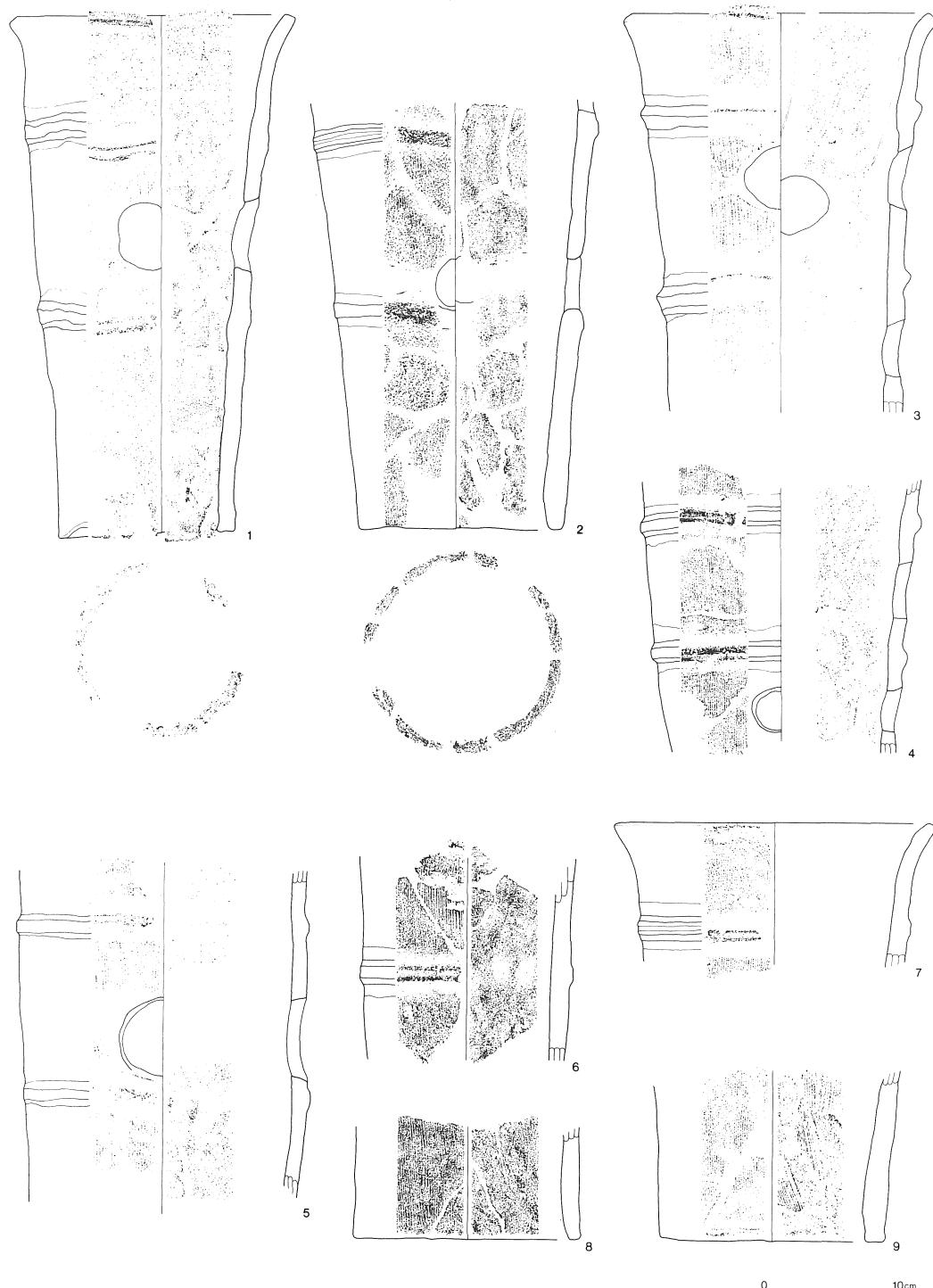
※

埼玉県内から出土している盾形埴輪は、管見の限りでは21例をあげることができる(一覧表参照)。遺跡の内容は窯跡3・円墳8・前方後円墳8であり、前方後円墳からの複数の出土がめだつ。このうち、破片を除いて形状の明らかなものみると、本庄市出土例以外はすべて本例と同じく上辺が弓なりに盛り上がる形のものである。このような形態や周囲に鋸歯文をめぐらしたデザインは東国ではよくみられるものであるが、本例の場合は稻荷山古墳出土例や、群馬県塙廻4号墳出土例(石塙他1980)のような朱彩も施されておらず、その割付けもくずれたものとなっている。この点をあえて年代差としてとらえるならば、本例はこれらの盾形埴輪よりも新しい形式のものといえよう。それは、かつて筆者が示した小前田2号墳の年代観(6世紀中頃)(瀧瀬1986)と矛盾するものではないと考えられる。

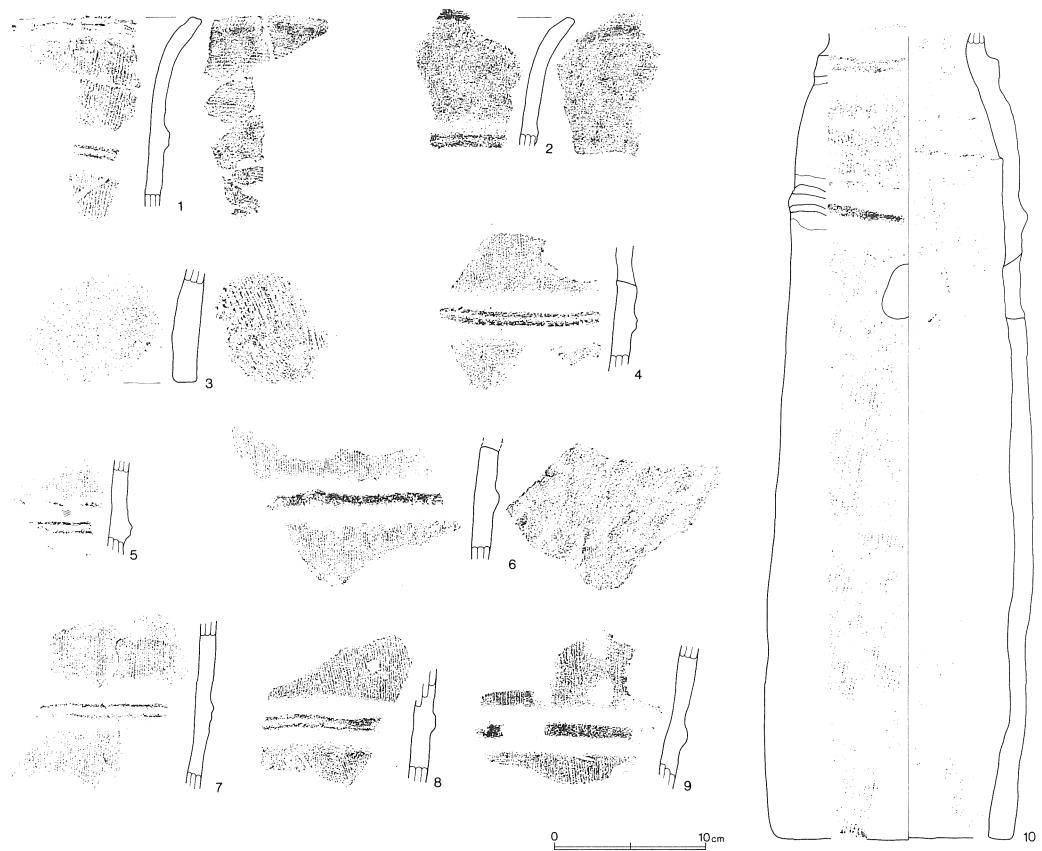
※



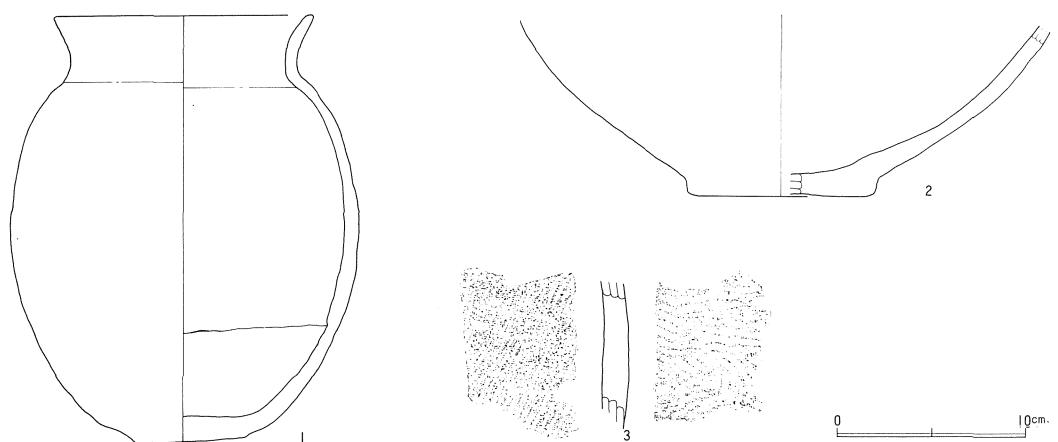
第4図 形象埴輪 (1/5)



第5図 円筒埴輪(1) (1/5)



第6図 円筒埴輪(2) (1/5)



第7図 土器類 (1/4)

以上、簡単に小前田2号墳出土の盾形埴輪を紹介したが、本例は県内の出土例のなかでは、もっとも遺存状態が良好な資料であり、このような貴重な資料を本報告書に掲載しえなかった筆者の怠慢を深く反省する次第である。しかし、幸運にも再び発見され、考古学的資料として日の目をみさせることができたことで、おくればせながらやっと報告者としての義務を果たすことができたと感じている。研究者諸氏の基本資料として活用していただければ幸いである。

埼玉県内盾形埴輪出土遺跡一覧表

番号	遺跡名	所 在	遺跡の種類	個体数	共伴の形象埴輪
1	白鍬塚山古墳	浦和市白鍬	円墳	2	家 人物
2	馬室埴輪窯跡群	鴻巣市大字原馬室	窯跡	2	馬 人物
3	屋田5号墳	嵐山町大字川島字屋田	円墳	1	家 大刀 矛 鞄 馬 人物
4	代正寺15号墳	東松山市宮鼻	円墳	2	大刀 鞄 馬 人物
5	桜山窯跡群	東松山市大字田木	窯跡	2	家 大刀 鞄 鞄 馬 人物
6	広木大町2号墳	美里町大字広木	円墳	1	家 鞄 鞄 馬 人物
7	広木大町11号墳	美里町大字広木	円墳	1	大刀 剣 鞄 鞄 馬 人物
8	公卿塚古墳	本庄市北堀	円墳	複数	家 囂 甲冑
9		本庄市諏訪		1	
10	北塚原古墳群	神川町新里		1	
11	千光寺1号墳	岡部町山崎字千光寺	前方後円墳	1	鞄 人物
12	割山遺跡	深谷市大字上野台	窯跡	(5)	大刀 矛 鞄 馬 人物
13	小前田2号墳	寄居町大字桜沢	前方後円墳	3	家 人物
14	小前田11号墳	花園町小前田	前方後円墳	1	人物
15	箱崎3号墳	川本町畠山	円墳	1	翳 鞄 馬 人物
16	稻荷山古墳	行田市埼玉	前方後円墳	3	馬 猪 人物
17	瓦塚古墳	行田市埼玉	前方後円墳	3	家 大刀 馬 人物
18	二子山古墳	行田市埼玉	前方後円墳	1	鞄 蓋 水鳥 馬 人物
19	愛宕山古墳	行田市埼玉	前方後円墳	破片	家 蓋 大刀 馬 人物
20	酒巻15号墳	行田市大字酒巻	前方後円墳	1	家 大刀 鞄 鞄 馬 人物
21	小沼耕地1号墳	騎西町大字上種足	前方後円墳	(6)	家 馬 猪 水鳥 人物

※個体数のカッコ内は推定

## 一覧表文献（番号は一覧表と同じ）

- 1 宮崎由利江 1989 『白鍬宮腰遺跡発掘調査報告書（第2次）』浦和市遺跡調査会報告書第123集
- 2 塩野 博他 1978 『馬室埴輪窯跡群』 埼玉県埋蔵文化財調査報告第7集 埼玉県教育委員会
- 3 今井 宏他 1984 『屋田・寺ノ台』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第32集
- 4 鈴木 孝之 1991 『代正寺・大西』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第110集
- 5 水村孝行他 1982 『桜山窯跡群』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第7集
- 6 小渕良樹他 1980 『広木大町古墳群』 埼玉県遺跡調査会報告第40集
- 7 6と同じ
- 8 佐藤好司他 1986 『埼玉県古式古墳調査報告書』 埼玉県史編さん室
- 9 駒宮史朗他 1984 『杖刀人とその時代』 埼玉県立博物館
- 10 大谷徹氏御教示
- 11 増田逸朗他 1975 『千光寺』 埼玉県遺跡調査会報告第27集
- 12 今泉泰之他 1981 『割山遺跡』 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 深谷市割山遺跡調査会
- 13 瀧瀬 芳之 1986 『小前田古墳群』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第58集
- 14 13と同じ
- 15 村松 篤 1992 『箱崎古墳群第3号古墳・渕ノ上遺跡発掘調査報告書』 川本町教育委員会
- 16 柳田敏司他 1980 『埼玉稲荷山古墳』 埼玉県教育委員会
- 17 杉崎茂樹他 1986 『瓦塚古墳』 埼玉古墳群発掘調査報告書第4集 埼玉県教育委員会
- 18 杉崎 茂樹 1988 『二子山古墳』 埼玉古墳群発掘調査報告書第6集 埼玉県教育委員会
- 19 杉崎 茂樹 1985 『愛宕山古墳』 埼玉古墳群発掘調査報告書第3集 埼玉県教育委員会
- 20 中島 洋一 1989 『酒巻15号墳 稲荷前遺跡』 行田市文化財調査報告書第21集 行田市教育委員会
- 21 田中 正夫 1991 『小沼耕地遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第100集

## 参考・引用文献（一覧表にあげたものを除く）

- 石塚久則他 1980 『塚廻り古墳群』 群馬県教育委員会  
駒井和愛・吉田章一郎 1973 「寄居町塚屋古墳群調査概要」『埼玉県埋蔵文化財発掘調査要覧』 埼玉県  
埋蔵文化財調査報告書第2集 埼玉県教育委員会  
中川成夫他 1958 「埼玉県大里郡花園村の考古学的調査」『史苑』18-2 立教大学  
寄居町 1984 『寄居町史』